

健口だより

第43号

令和5年11月8日

発行者 日高歯科医師会 山口一史
発行所 日高郡新ひだか町静内御幸町3丁目
TEL 0146(42)1486

歯を抜いた後に 行う治療とは？

歯医者さんで「この歯は抜かなければなりません。」と言われて、抜歯した後はどうなるのでしょうか。歯を抜いた後の治療方法は主に3種類あります。ブリッジ、入れ歯、そして、インプラントです。もう一つ、親知らずの移植がありますが、これについては条件がかなり限られてくるためここでは紹介しません。

①ブリッジ

ブリッジとは、英語で「橋」という意味です。抜いた歯の両隣の歯を土台として、橋のようにつなげます。そのためブリッジと呼ばれています。抜いた部分の歯は見せかけ状のもので、歯の形はしていますが、実際は土台がありません。ブリッジの良いところは、ほぼ抜く前の状態と変わらず、違和感がなく使用できるというところです。そし

て、現在の日本の保険治療の対象にもなっています。ですから、費用的な面でも無難であり、多くの人にこの治療が選ばれています。つながつたかぶせ物は接着剤で固定してしまうので、取り外す必要もありません。噛む力も天然の歯と変わらず、土台の歯がしっかりしていれば、なんでも噛むことができます。前歯は銀歯ではなく、白い歯で作ることができます。また奥歯については通常銀歯になりますが、保険外のものであれば、全部白い歯にすることも可能です。

ここまで聞くと、万能な治療のように思われますが、ブリッジを行う際に、土台となる歯を削らなければなりません。虫歯ではない健康な歯であつてもです。神経を取り除いてから削ることも多く、土台の歯にとってはダメージの大きな治療方法です。またブリッジにするためには、しっかりと土台の歯であることや、多数歯の抜歯を行った場合はある程度の土台の数が必要なので、ブリッジにすることができない場合が多いのです。

②入れ歯

入れ歯のことを、別名義歯（ギシ）と言います。「義」というのは「実物の代わり、仮のもの」という意味です。義眼や、義足、義手という体の一部が欠損した場合、人工的に見せかけ状のものを作り装着します。歯においては入れ歯がその役割になります。義歯は前歯については顔立ちをきれいに見せ、奥歯ではある程度食事をするのが可能です。噛む力が小さいので、ブリッジと全く同じように食事をすることは不可能ですが、ある程度の食事をとることはできるので、歯茎の型取りを行い、保険診療の範囲で製作することが可能です。費用的にも最も安価で、経済的な負担を小さくすることができます。しょう。治療時間や回数が少ないなど、肉体的な負担も小さいことも義歯の長所です。また現在では、保険適用の範囲外となりますが、総入れ歯の内面にシリコン製のクッションが張り付けてあるものや、金属を使用しない義歯も広まってきました。初めて入れ歯を使用する際は、違和感があり、食事や、発音をするためには、多くの慣れる時間が必要です。

